利用者等ヒアリングの実施報告

■実施状況（実施結果は下表）

Ⅰ利用者

実施日	場 所・方 法	利 用 内 容
8/11	岡町図書館／対面	対面朗読（リモート）
9/8	野畑図書館／対面	対面朗読、点字図書
9/14	岡町図書館／対面	対面朗読、点字図書、録音図書
9/22	野畑図書館／対面	対面朗読
10/6	岡町図書館／対面	対面朗読、点字図書、録音図書
10/17	ひまわり／対面	点字図書、録音図書。製作図書選定会議参加
10/21	岡町図書館／リモート	対面朗読、プライベート音訳

Ⅱ支援者

実施日	場 所・方 法	利 用 内 容
5/31*	岡町図書館／対面	*要約筆記グループへの書面ヒアリング
8/5 9/29	岡町図書館／対面	録音図書製作

■実施予定（日時・方法は未定）

・宅配貸出利用者２～3 人
・対面朗読利用者（児童・生徒）１人
・点字図書利用者（児童・生徒）２人

豊中市立図書館利用者及び支援者ヒアリング実施結果（まとめ）

	テーマ（キーワード）	聞き取り内容	備考
例	・対面朗読 ・時間制限緩和	１回の対面朗読にかかる時間数を長く設定してほしい。（ヒアリング対象者）	基本構想：重点的な取組み方針
1	・読書や情報取得手段について	・JB ニュース、月刊府視協、点字毎日 点字毎日は墨字・点字・点字データ・デイジー・テキスト版等の形態があるが墨字と点字版で事足りている。（A） ・週刊誌や月刊誌の記事について問い合わせても見つからないという返答で落胆することが多い。（A） ・岡町図書館の４階の点字図書室は資料を探しようがない。サピエに加入していない人も、図書館だけを窓口にしている利用者も多い。目録の整備が必要だと思う。（A） ・館内に滞在して読書するためには入力した内容を音で知らせるパソコン（館内蔵書検索機）があるとよい。新しい拡大読書機（拡大、音声化、印刷できる機器）が図書館に置いてあっていつでも使えると助かる。（A） 【用語】 ※点字 JB ニュース：最新の新聞情報、福祉関係情報が主な記事（平日刊） ※月刊府視協：大阪府視覚障害者福祉協会会報。福祉関係情報が主な内容 ※点字毎日：毎日新聞社が発行する週刊点字新聞。視覚障害者に関連のある福祉、教育、文化、生活等のニュースを本紙とは別に独自取材・編集されている。 ※サピエ、サピエ図書館：サピエ図書館は、視覚障害者等が利用しやすい電子書籍のデータや、どこの図書館が所蔵しているのかという情報をインターネット上で集約し、視覚障害者や点字図書館、公共図書館などの施設が利用できるようにした電子図書館。その電子図書館サービスを含む、支援事業のネットワーク事業が「サピエ」。	
2	・対面朗読の利用について ・対面朗読を利用するメリットは？	・対面朗読については読んでほしい資料がないので週１回で満足している。同じ人に担当してもらっている。ボランティアさんから情報をもらうこともある。（A） ・利用者が来館しやすい場所にリーディング室（対面朗読室）は設けるべき。出張所などの市の関連施設や、利用者自宅で実施してもよいのではないか。（A） ・やりたいときに出来るように対面朗読室は複数あるといい。視覚障害者一人でも行けるように入り口近くや障害物のない場所に作ってほしい。（A） ・豊中に引っ越してきた当時、自宅からの同行援助を依頼して庄内図書館で対面朗読を利用し、CD のライナーノーツや郵便物、チラシ、カタログなどを読んでもらっていた。 現在はコロナだけが理由ではないが利用していない。（B） ・初期は CD を借りることもあったが、現在は対面朗読で、手持ちの資料や継続的に勉強するための資料を読んでもらっている。（C）	

		・図書館では、持ち込みの資料を読んでもらえるので助かっている。（C） ・頻度については週１回、予約制でも不都合を感じていない。（C）（F）（G） ・初期は対面朗読も利用がそれほどなく、読み手を毎週変えると提案されたが、非効率なので本１冊ごとに読み手を変えるという方法にしてもらった。（C） ・利用するのは専門書が多いため読める方が限定され、以前のボランティアは 10 年以上、現在も５年近く読んでもらっている。（C） ・週１回利用していて、ボランティアとの合間の休憩の雑談や、行き帰りの送迎時にする職員との会話も含めての対面朗読という認識で、楽しみにしている。対面朗読はそういう時間も大事なので、人と人とのふれあい、茶飲み話込みで考えている。（C） ・千里図書館の対面朗読室について、何度か使ったときに静音性は高い部屋だが音が拡散するというか違和感があり、若干集中しにくかった。（C） ・野畑図書館の対面朗読室は、落ち着いて利用できる空間。（C） ・対面朗読を快適に利用しているし、これが今後も続いて欲しい。（C） ・朗読者が下読みをしているのは有難い。知らないことの下調べや、図表の読み方などあらかじめ工夫してくれている。対面朗読は同じ図書を一緒に読みといていく感覚が、サピエなど音訳図書を読む場合とは異なっている。（G）	
3	・リモート会議システム（Zoom）による対面朗読について	・リモートでの対面朗読は機器の操作を教えてくれる人がいないとできない。多くの人が使用している OS も古いので、対応が無理だと思う。スマホなども生活用具に含まれるよう要望している。支援してくれる人があると頼れるが、そうでないと誰が面倒を見るのか。（A） ・仕事でリモート会議システムも使っているが、リモートでの対面朗読は、プライベート録音で音訳データを渡してもらうのと大差ないと感じるので、あまり利用しようとは思わない。メニューとして選択できるようにしてあることは望ましい。（C） ・リモート会議システムを用いた対面朗読は、利用してみたが違和感が強かった。声だけでは、相手を認識できないため、今後利用しようとは思わない。（D） ・リモートでの対面朗読に違和感はない。家から離れた場所だと、来館に要する時間を節約できる点が良い。終わってから、朗読ボランティアと買いものをしたりすることはできなくなる。（F）	（２）アウトリーチサービスや非来館型サービスの推進
4	・点字図書の利用について	・点字図書はじっくり読む感じ。今は点字データを使って音声で読むことがほとんど。点字図書のほうがタイトル数が多いため、それらが点字データになったものが増えるともっと便利になる。Windows に移行するときにそれまでの Dos 形式のファイルを全て移行できていないのはもったいない。それらがデータで今も読めるのにと思うと残念。（A） ・点字本があるうちにデータ化しておく必要性を強く感じる。点訳されているものから点字データに移すだけなので比較的簡単に点字データ化できるはず。（A） ・点字データが間違っているとそのデータを基に印字するとすべてで間違ってしまう。間違いを指摘してもデータの所蔵先に伝わりにくいため、そのようなことが起こるのではないか。作っている人と、使っている人の接点がないための問題。（A） ・点訳図書は・読みたい気持ちはあるがサイズ的に郵便受けに入らず、不在にできないため受け取りが不便で音訳図書を選んでいる。ただ、点字のルールは何年かに１度変わるので読み続けないとわからなくなる。そうならないよう、点字に触れる機会という意味でも点字雑誌の郵送を利用している。（B） ・点字は大好きだが、点字に触れる時間は減っている。（C） ・固有名詞、外国人の名前など、点字で初めてつづりを確認できることもある。学齢期の人で言うと、英語のスペルを認識したり、数式を書いたりするのに点字が必要で、何よりも公的な試験では点字が読めないと受験できない。学校教育において点字で勉強し、点字で考えて点字で文章を書くのは重要だが、社会人になって必要かというのとは別の問題。今でも電話番号等のメモは点字でとるが、電子の機器（ブレイルメモ）を使っている。逆に専門書などは考えて読まなくてはいけないもので、行きつ戻りつしながら読むようなものは点字が向いている。（C） ・読書のスタイルが変わってきた。以前は転居先を探すときに郵便局に近いということもポイントだったが、点字図書を返すということを想定する必要性もそれほどなくなってきた。（C） ・点字の図書が岡町にしかないのが困る。東豊中や、千里、野畑図書館に行っても点字の蔵書がないのが、とても困っている。たくさん置いて欲しい。（D） ・点字図書は返却のため郵便局に持ち込むのに苦労するから、利用を敬遠しがち。（E） ・点字は速く読むこともできるし、じっくりも読める。点字で読むと、内容が頭に入りやすいように感じている。（E） ・点字は視覚障害者の文字という意識があり、もっと利用のすそ野を広げたい。（E） 【用語】 ※ブレイルメモ：点字文書の作成・編集、音声図書の再生・録音などの機能がある。本体には点字を表示する点字ディスプレイを備えている。	

5	・録音図書の利用について	・音訳図書ではシリーズもので、固有名詞の読み方が違っていたり、途中の巻が抜けていたりする。（A） ・録音図書がカセットテープの時は速読できるのでカセットテープを選ぶこともあった。（A） ・鉄道雑誌 2 誌の音訳図書を利用中。（B） ・音声デイジー図書やマルチメディアデイジー図書を読んでいる。児童書を読むことが多い。（D） ・早聞きはしていない。しっかり聞く個所は速度をゆるめたり、戻して聞き直したりしている。しおり機能は使っていないが、音声デイジー図書は階層ごとにデータ編集されているので、読みたいところから読み始めることができている。（G） 【用語】 ※音声デイジー図書：電子書籍のひとつ。目次や項目ごとに読みやすいようデイジー編集を施した録音図書。	
6	・プライベート録音	・プライベート録音の依頼先がよくわからない。（A） ・時間がかかるので出来るころには忘れてしまっている。（A）（F） 【用語】 ※プライベート録音：録音図書などの製作を個別に受付けて製作すること。年間 30 タイトルの市委託録音図書や、ボランティアグループの自主製作図書と分けている。	
7	・さわる絵本について	・さわる絵本も借りている。イメージしにくい絵のものは、触れた感触だけでは理解できない。わかるところを読みすすめる感じ。（D）	（４）子ども読書活動推進の新たな展開
8	・テキストデイジー ・シネマデイジー	・シネマデイジーなど、防音で良い音で聞ける部屋が利用したい人が複数いても同時に使えるようにいくつかあるといい。晴眼者と障害者分けずにどちらも使えるようにしたらいい。（A） ・映画（シネマデイジー）を聞く。場面展開や役者の動きなどの解説が追加されていて、耳で聞いて楽しむことができる。「となりのトトロ」で、解説がされていて、驚いた。（D） 【用語】 ※テキストデイジー：音声に代わり、文字データを読みやすいようデイジー編集したもの。読みあげソフト等を用いて、耳で読書する。 ※シネマデイジー：映画の音声データに加え、登場人物の動きや場面転換について音声解説を追加したもの。CD やダウンロードにより視聴する。	
9	・サピエ図書館について ・国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスについて	・サピエはパソコンで利用している。パソコンの OS が XP のままなので困ることはある。サピエは、XP を利用している登録者が多いためサイトの仕様を XP にも対応させている。豊中市立図書館のサイトは対応していない。電話をかけて対応してもらうので困っていることはないが、「サイトを見てください」とばかり言うのは問題だと思う。（A） ・サピエ図書館について、登録はしていたが、個人的には留学した際によく使うようになった。（C） ・普段の読書はほとんどサピエ図書館を使っている。（C）（F）（G） ・サピエ図書館を利用している。シネマデイジー（映画）を楽しんでいる。（D） ・サピエ図書館はハンディサイズのプレクストークを使って利用している。（D） ・サピエ図書館は ipad、iphone でも利用している。（D）（F） ・サピエ図書館にないものは、図書館経由で音訳図書を取り寄せたり、対面朗読を利用したりしている。（G） ・サピエ図書館を利用することで、視力を失う前よりたくさん読書するようになった。就寝前や移動中に聞くこともできて便利。（G） 【用語】 ※サピエ図書館：項目１【用語】 ※国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービス：サピエ図書館と同じく、インターネット上で、視覚障害者や公共図書館などの施設が利用できるようにした電子図書館。	（１）電子書籍をはじめとするデジタル媒体の導入 （５）広域連携の推進
10	・情報メディアや機器との関わり	・Youtube で自動車情報を得ている。J:com リンクを利用している。リモコンで音声入力して使える。Google アシスタントに話しかける感じ。（B） ・点字キーボードの付いた、各種記憶メディアも使える多機能な電子手帳もある。文書を作成し音声で読み上げさせることも、点字データにして点字プリントにも対応している。健常者とのコミュニケーションにも対応しているのだが、安くて定価は 40 万円前後する。豊中市の給付対象は重複障害の人で、視覚障害単体の自分は対象外だった。（B） ・携帯型プレクストーク（デイジー図書視聴機器）の基本的な使い方はすぐに習得できた。（D） ・ipad を使って、Youtube を見たり、ボイスオブデイジーで読書したり、映画を観たりしている。便利なので人にも薦めたいと思う。（D） ・インターネットに接続できる機器は持っているが、電話や電子メールが使えるので、困ってはいない。図書館からは電話により図書を送ってもらえる。（E） ・読書専用機器（携帯型プレクストーク）を使っていたが、今はスマホひとつで事足りている。（F） 【用語】	（１）電子媒体をはじめとするデジタル媒体の導入

		※プレクストーク：音声デイジー図書を視聴する機器。インターネットに接続できる機種もある。 ※ボイスオブデイジー：iphone 等でサピエ図書館を利用できる有料アプリ。	
11	・読書機器の多様化に合わせた利用方法のレクチャーを図書館に期待するか	・音声デイジー図書は置いてあるのに再生するための機械が無い。利用者が機器を持って来ないと聞けないのはおかしい。一緒に置いておくべき。（A） ・スマホでデイジー図書が読めるよう使い方を教えて欲しい。対面朗読で使い方について取扱説明書を読んでもらいながら使えるよう支援してほしい。（A） ・スマホの使い方に慣れず、日本ライトハウス情報文化センターで講習に参加しているが、有料なので習得できるまで通い続けるのは厳しく感じている。（B） ・視覚障害者でも Youtube など上手に使いこなしている人もいて、感心している。利用できる人、できない人の格差は広がっていると思う。図書館のサービスとして機器を利用できる環境を提供するというのも意味があると思う。（B） ・ICT の利用は個人差があるが、パソコンも使っていたのであまり問題なかった。スマホは使えていないので、技術の進歩に取り残されつつあるとは感じている。機器の利用については視覚障害に関係なく課題だと思う。（C） ・機器の講習会を最寄りの図書館でして欲しいというニーズはあると思う。当事者が教えてくれるような場になるとなお良い。（C） ・使い方をじっくり学べるなら、操作方法を身につけて、いろいろ利用してみたい。現在は強くその必要性を感じている訳ではない。機器やサービスの利用に関する講座は１回で覚えられない人に向けたプログラムが必要。教えられる人の数が少ないと聞いた。（E） ・使い始めは日本ライトハウスの無料体験講座を利用した。初歩の初歩以降は試行錯誤しながら、使い方を習得した。（F） ・機器の設定などは日本ライトハウスの窓口でしてもらった。機器の操作も難しくない。日常生活用具の給付対象でもあるので、費用負担に対してメリットが大きいと感じている。（G） ・白杖支援者が４月から来なくなったので、すぐに聞ける人が少なくなった。PC 操作など気軽にたずねて、教えてもらうことができていたのだが。（G） ・いよいよ視力がなくなろうとしている。PC 操作をキーボードでできるよう練習している。PC ソフトもそれぞれに操作方法が異なる場合もあって、それぞれに習得する必要がある点は不便を感じている。Excel の操作が別の表計算ソフトで共通でないこと。（G） ・機器の使用感など交流しながら、情報交換できる機会があれば参加してもよい。（G）	（１）電子媒体をはじめとするデジタル媒体の導入
12	・豊中デジタル図書館の利用について	・電子書籍目録がなく、どんな本を所蔵しているかわからないので利用できない。（A） ・電子書籍が利用できるのは知らなかったが、テキスト版サイトもあり非来館型のサービスで便利だと思う。（B） ・サービス自体知らない。（C）	（１）電子書籍をはじめとするデジタル媒体の導入
13	・オーディオブックの利用について	・オーディオブックはまだ使っていない。スマートフォンが使えるようになったら使ってみたい。（B） ・個人的には利用していない。使い勝手が良くないということもあるし、ほかで読書できているので使っていない。（C） ・Kindle や epub 形式（一般的な電子書籍の規格）の電子書籍を読んでいる。スマホで読んでいる。（F）	（１）電子書籍をはじめとするデジタル媒体の導入
14	・ＳＤカードや電子メールによるデータの提供について	・図書館から提供するデータを、SD カードで受け取ることについては可能。媒体が小さくて、扱いにくいという心配は無用。電子メールは使用していない。（A） ・サピエから個人的にダウンロードする時には SD カードにデータを保存している。（G）	（１）電子書籍をはじめとするデジタル媒体の導入
15	・障害者用資料の製作について	・サピエで調べると重複して製作しなくて良いので希望をそのまま作る必要はない。シリーズもので抜けているものを作って欲しい。点字図書として存在しないものは対面朗読で読むこともできるがそこまでして読もうとは思わない。過去の作品がアップされていると喜んで読む。要望は野畑図書館で伝えている。（A） ・Youtube で自動車に関する情報を得ているが、目でしか分からない情報が多い。外観や内装、ボタン装置の解説など細かい情報が掲載されている本や雑誌をリクエストで音訳図書にしてもらえると嬉しい。（B） ・図書館で製作する点訳図書・音訳図書の選定会議に出席している。（E） ・プライベート録音を依頼しても製作に時間（半年以上）がかかりすぎて、利用できる機会が限られている。（F） ・週刊誌など速報性の高いものがタイムリーに音点訳されるとありがたい。資格試験の教本などで視覚障害者が読める（アクセシブルな）図書が少ないと感じる。（F） ・テキストデータが付与された（アクセシブルな）電子書籍の出版も増えてきている。小説などにその傾向が強い。そうでないものを音点訳していく必要性を感じる。（F） ・製作者と利用者とをつなぐ役割を図書館には果たして欲しい。利用統計など伝えてもらえると本選びの参考になる。（支援者 B）	（１）電子書籍をはじめとするデジタル媒体の導入 （３）市民協働の場としての活用 （５）広域連携の推進

16	・(仮称)中央図書館に期待すること	・駅の近くがいいが曽根・岡町・豊中駅のどこも駅周辺が複雑になっていて行けない。(A) ・応対・案内をしてくれるスタッフ（何をしに来たか聞いてくれる存在）が必要。(A) ・中央図書館では利用者が集まって話したりできる場所があるといい。自販機も置いてほしい。静まりかえった環境ではなく、普通に音があるほうがいい。カフェのような空間がいい。(A) ・対面朗読室は順番待ちしなくても利用できるよう複数あってほしい。手引きが無くてもたどり着けるよう、出入り口に近く、障害物のない場所に配置してほしい。(A)（F） ・障害者は同じフロアで用事が片付くようにしてあるだけでも良い。(A)（F） ・対面朗読室のようなスペースがあればヘッドホンなしでも読める。映画も音だけで楽しめるが、観たいものは有料のものが多い。観た記憶が残っているものは声だけでも楽しめる。新しいものはガイドがないと難しい。(A) ・公共施設は最近、駅から近い場所にあるが、道幅が狭い、歩道がない、車の交通量が多いなど危険を感じることが多い。また、点字ブロックの設置が適切でなかったり、メンテナンスが不十分だったり、ひとりで通うには困難を感じることもある。館内で移動する動線についてもしかり。図書館の再編を検討するのであれば、動線の安全について議会や行政できちんと検討して欲しいと思っている。（B） ・中央図書館では車いすの回転ができたり、通り抜けができたりするエレベーターにしてはどうか。(B) ・駅から図書館の距離は少々離れていても大丈夫。歩行の援助もいただけるので。駅からバスに乗り換えるのは困る。どこから乗るのか探すのにも苦労するから、利用のハードルがあがると思う。（B）（F） ・誘導チャイムは便利。公共施設ではエレベーターにもよく付いている。地下鉄の地下出入口にある。信号だけでなく、駅名まで含めて案内してくれるものもある。人感センサーで対応するものもあって助かる。そこに何があるのか知らせてくれるほうが嬉しい。性別で分かれる場所などでは信号音だけでは足りない。(B) ・図書館の中でトイレの誘導などはトイレ内まで案内、説明しているか。ヘルパーさんに手洗い場所や、便器の位置、リモコン操作についてまで説明してもらうこともある。身体介助がある場合はどうか。トイレの介助は、まわりの声かけも必要。事故が起きないよう十分な配慮を。(B) ・映画を観るスペースが欲しい。もしくは、音声ガイド付きの映画上映。また、デイジー図書の試聴機器があれば、図書館で試聴して気に入ったものを貸出し、自宅で聴くということもできる。（B） ・シネマデイジーは映画の本編に解説を付けてあると思うが、中央図書館でそうしたものを上映する機会があるなら参加してみたい。(B) ・アクセスは駅から近いと嬉しい。自分で企画したイベントでも会場を駅近であることは絶対条件。駅から離れると、ヘルパーの手配など手間がかかり、それだけで行く気持ちが削がれる。(C)（F） ・アクセスの面では、千里図書館と蛍池図書館は駅から直結のため行きやすい。岡町図書館は視覚障害者の立場からは遠い。自転車や自動車と同じ道を歩くのは緊張度合が違ってくる。(C)（F） ・駅からの歩道が確保されて点字ブロックがあったとしても、今のように図書館と最寄りの駅間の送迎があるのは大事にして欲しい。立地条件も大事だが、ソフト面での支援も残して欲しい。（C） ・点字図書や録音図書がそこで読める環境を整えてほしい。(D) ・駅近であれば時間の無駄もないし、待ち時間も有効に活用しやすい。(F) ・名古屋市鶴舞中央図書館は公園にあるが、点字ブロックが公演内も敷いてあり、図書館に行くついでに公園を散歩することもできる。点字ブロックを有効に活用している例だと思う。(F) ・ワークショップなど、視覚障害者の意見を計画に取り入れる工夫が必要。(F)	
17	・図書館の再編について	・最寄りの図書館が引っ越したらもう来館できない。私が図書館に来館できているのも近くに住んでいるから。見えていたころと場所が変わってしまうとわからなくなってしまう。岡町図書館や千里図書館は入口がわからない。(A) ・対面朗読を最寄りの図書館で利用できなくなる点については気にならない。サービス自体がなくなると困るが。(B) ・中央図書館にすべてを集約すると、いろいろ弊害は予想される。中央図書館への集約を考えるなら、安全、安心してアクセスできる道や内装環境を十分考えてもらいたい。(B) ・読書の方法としてデータをダウンロードして聞くのと分けて考えているから、歩いて行ける生活圏内に公共図書館があって、対面朗読を利用できるのは自分にとっては大きなこと。そこでボランティアの方が読んでくれるサービスは残して欲しい。千里図書館も行けないことはないが、阪急沿線の中央図書館は遠く、最寄りの図書館での対面朗読は残って欲しい。(C)	

18	・図書館に機能面で備えたら良いと思うもの	・岡町の点字図書室について、ジャンル名を本棚に掲示してはどうか。棚の厚みがあれば、点字テープで貼ることができると思う。「日本の小説」といった点字表記があれば良い。（B） ・障害者サービスが充実している図書館は障害当事者の正規職員がいて、視覚障害者もその図書館に期待や安心感を持つということがある。近隣では枚方市立図書館のような例があって、実績のある豊中市立図書館も当事者の正規職員を雇用して欲しい。（C） ・府立中央図書館のイベントスペースを利用することもあったが、気軽に使えて一般の人にも知ってもらえる空間なのが良く、高知声と点字の図書館も、１階に視覚障害者用の閲覧スペースがあり、来館者の目につくロケーションになっていて良かった。（C）（F） ・高知のオーテピア（オーテピア高知図書館・高知声と点字の図書館・高知みらい科学館の複合施設）の良さは機能複合的なところ。障害福祉の窓口も併設されており、同時に複数の目的を果たせる。（F） ・気軽に立ち寄って館内で過ごせるスペースが必要。今は対面朗読室も予約での実施時には使えるが、急に思い立って必要な資料をガイドヘルパーと読もうとしても、そういう目的では使用できないと断られた。（F） ・リモートでの対面朗読が利用できない人のために、市内の図書館以外の施設（スポット）で対面朗読を受けられるような体制を整えてはどうか。視覚障害者が外出する機会のひとつとしての役割も大事だと思う。（F） ・出入り口に受付・案内のスタッフがいるのが望ましい。（支援者 A） ・聴覚が働かないことで、視覚にはより負担がかかる。掲示の文字も一定以上の大きさが確保されていると良い。（支援者 A） ・防音設備の整った録音室や機材置き場を設けて欲しい。自宅録音では周囲の雑音などへの配慮にも限界がある。（支援者 B）	
19	・市民、職員との関わり	・対面朗読の来館時に朗読ボランティアや図書館職員との交流も貴重な体験だった。図書館サービスの発展につながるようなことには協力したい。（C） ・図書館の集会室で集まって、いろいろな絵本やストーリーテリング（語り）を楽しんでいる。点字で覚えたお話しを語ることもある。（D） ・電話により希望図書を依頼している。電話により図書館職員と会話できるのも良さと感じている。（E） ・障害福祉センターひまわりでの点字講習会はじめ、視覚部会の活動により社会と関わり、充実感を得ている。（E） ・対面朗読者の報酬が少ないと感じている。（F） ・対面朗読者から身のまわりのちょっとした情報を教えてもらえる。（F） ・図書館協議会に介護職員や福祉部局の職員が参加しても良いのでは。（支援者 A） ・保育所、幼稚園、小学校～高校との連携を深めていくと、よりサービスが広がると思う。（支援者 A）	（３）市民協働の場としての活用 （６）内容に応じたサービス提供体制の構築
20	・人材育成について	・ボランティアが長く固定している良さは、細かいところの確認はしなくても意思疎通ができること。（C）（F）（G） ・専門書も読める人材が、安定的に確保してもらえるよう期待している。（C） ・要約筆記など聴覚障害者とのコミュニケーションについて職員研修してはどうか。ボランティアの観点からになるが、協力できる。（支援者 A） ・録音図書製作のための自主研修に図書館の集会室を使えるのはありがたい。（支援者 B）	（３）市民協働の場としての活用 （６）内容に応じたサービス提供体制の構築
21	・情報提供 ・読書案内	・日本点字図書館の「セレクトパック」のようなサービスを豊中もやればいい。（A） ・福祉会が年１回情報発信しているが、加入者が対象。年配の人が多い。若い人は、会の存在を知らないか入りたくない人もいる。会費負担の経済的な問題もある。広報とよなか（音声デイジー）を障害福祉センターひまわりで借りているが、福祉会に入会していない人にとって情報収集に有効。（B） ・対面朗読の実施について、当事者には意外と知られていないのではないか。図書館サービスを紹介するためのイベントと当事者が企画するようなイベントを啓発的に行ってはどうか。以前に岡町図書館でも実施したようなイベントが定期的に開催できれば来館も増え、最寄りの図書館で対面朗読が受けられると知れば、次からは利用してみようという人もいると思う。（C） ・市民が情報の受け手だけではなく、情報を発信する側にもなりつつある。発信を支援できる仕組みを図書館も考えて欲しい。（F） ・図書館からの新刊案内は、図書の新刊情報という面と、流行りを知るという面と両方で役立っている。（G） 【用語】 ※にってんセレクトパック：日本点字図書館が取り組んでいる、ベストリーダーや世界の小説など特定テーマの図書データをダウンロードして、データをまとめて希望者に提供するサービス。	

22	・イベントの PR 方法について	・なかなか難しい。当事者団体も高齢化していると聞く。（C） ・個人情報の管理も厳しくなり、情報が気軽に共有されなくなった。（C） ・主催するイベントではメーリングリストを使い、全国を対象に案内している。SNS で広く発信するよりはメーリングリストで当事者に届ける方法が今も有効。（C） ・イベント情報の共有については難しい。定員オーバーになったようなイベントでも、開催について知らなかったという声も聞く。（C）	
23	・これまでの読書環境について	・読書は基本的に家でしている。家から点字図書をもってきて読みたいが、図書館にはそのスペースがない。奥まで案内してもらうのも気がひける。（A） ・大人になるまで関東在住。中学生頃から学校の図書室以外に公共図書館も利用するようになった。当時、対面朗読サービスはなかったが、事前連絡で図書館職員に希望のものを読んでもらっていた。（B） ・点字本は寄贈や先生が点訳したものが主で、自分が読みたいものや流行のものは数年遅れで手元に届き、希望は出しにくい雰囲気だった。学校や公共以外に歩行訓練を兼ねて点字図書館を利用することで、ある程度興味関心のあるものを読むことができていた。（B） ・高校を卒業してからになる。今日も支援をお願いしている朗読ボランティアさんにお世話になっている。毎週１回の利用が、コロナ禍以降、月２回になった。（D） ・小中学生の頃は、晴眼者の姉が点字付きの絵本を一緒に読んでくれた。今はひとりで読むことが多い。（D） ・小中学生の頃は、点字図書を購入して、読書していた。（E） ・箕面市（勤務先）でも豊中市（居住地）でも電話により希望図書を依頼し、郵送により貸出、返却を利用。非来館で利用できるのが便利と感じている。電話により図書館職員と会話できるのも良さと感じている。（E）	
24	・送迎の際に気をつけること	・個人の意見としては、最寄りの図書館までの道は確かに歩きにくいが、慣れてはいる。点字ブロックは基本 1 人で歩くときに使うから、一緒に歩くときは凸凹を避けることを優先して欲しい。声かけも場合によるが、ひじの動きである程度伝わるので、そんなに気を遣わずとも良いと感じることもある。（C）	
25	・筆談や手話について	・中途失聴者が手話を身につけるのは簡単ではない。筆談や文書による伝達は正確性の点からも求められている。（支援者 A）	